

周恩来首相の死は、中国の対内、対外政策に大きな変更をもたらさないだろう。といのは、この約二年来、周首相の病気が伝えられ、すでにホスト周の対策がかなり講じられていたと考えられるからだ。もっとも、やや長期的に見れば、当然のことながら中国側からしても若干の変化は考えられよう。国内的結束を固める上には、または、対外政策の転換

周恩来首相の死は、かなり前から予想されていたことであつたが、中国にとっては大きな空白だ。周首相の革命聖のキャラクター、新中国建国後の政治的な足跡を振り返ってみると、非常に遠大な目標を持った戦略家であつた。

よく人は、周首相は、中国のナンバー・ツーで、うまく泳ぎまわつていたようにいうが、私はそうは思わない。毛沢東主席が民族のな使命に立っていたのに対し、周首相は国家的使命感に立脚し、

声明の中にも傑出した政治指導者の死を悼む言が語られている点にもあらわれている。こうした硬軟両用の政策の展開と長期的視野に立つた外交テクニクは、今すぐ

に思い起こす次のような大事件への対応の仕方にも表れているといえよう。 意外に見逃されている事件で、周首相の役割のひとつに西安の第二次国共合作が成立した。この時の立役者が周首相であつたこと

毛沢東政治の行き過ぎのしりぬぐいをしたり、自分が口をかぶる役目を果たしていた。つまり、内政的には調整役であつた。

第三世界と協調強化



寺沢

一九三六年、昭和十一年、蒋介石が西安に滞在し、日本軍に追われ、石が西安に滞在し、日本軍に追われた。この事件の誘導で、今日の中露の協調の張本良が彼を逮捕した。この事件の誘導で、今日の中露の協調の張本良が彼を逮捕した。この事件の誘導で、今日の中露の協調の張本良が彼を逮捕した。

「周恩来後」の中国

劉少奇のように正面から毛主席に立ち向かう形ではなく、非毛沢東化をすすめたというのが、周戦術の力。オマケだ。これは、周首相の死後、中国は、内政面では、すでに周



中嶋嶺雄

難しくなる日本外交

周恩来後をにらんで中国と接触している。日本は好むと好まざるにかかわらず、こうした大きな国際政治の波長の中で外交を展開していく。日本は好むと好まざるにかかわらず、こうした大きな国際政治の波長の中で外交を展開していく。日本は好むと好まざるにかかわらず、こうした大きな国際政治の波長の中で外交を展開していく。

(東京外大助教授)現代中国論(談)